

高校まで宮崎県延岡市の自然豊かな環境で育ちました。高校時代はラグビー一色の毎日で、1年生の時には花園への出場も経験しました。将来は体育教師を目指していましたが、ものづくりへの興味もあり、進路を変更して大学は土木工学科へ進学しました。地元の海や道路では工事が身近に行われており、スケールの大きな仕事への憧れもありました。

大成ロテックに入社後、新入社員研修を経て、静岡県裾野市でバイパスを新設舗装する直轄工事の現場に配属されました。富士山麓の風光明媚（めいび）な現場で、毎日、先輩社員とレベルやトラフィックを担いで測

大成ロテック 取締役執行役員社長室長

森永 修介氏

量や写真管理に奔走しました。悩む暇もないほど必死でしたが、自分たちが測量した場所に構造物が少しずつ形になっていく。その過程を目の当たりにした時のやりがい、今でも鮮明に覚えています。

関西支社へ赴任した時には京都市街地で約2キロを舗装する直轄工事、初めて現場代理人を務めました。30代前半の頃です。市街地の工事は山間部とは全く違う難しさがありました。夜間に重機を動かすと騒音や振動が出るため、周辺の住宅や飲食店に理解を求めて1軒1軒、何度も説明に回りました。工事を止めるわけにはいかず、真摯（しんし）なお願いを重ね、さまざまな困難を乗り越えて

おもしろ楽しく仕事に向き合って



て今日まで歩んでくることができました。

仕事をする上で意識しているのが、西郷隆盛の「天を相手にして人をとがめず、我が誠の足らざるを尋ね可し」という言葉です。判断に迷った時は、「相手が悪い」と考えるのではなく、「自分に足りないものはなかったか」と自問自答し決断しています。

若い人には、仕事を

父親と旅行で訪れた鹿児島県の島津家別邸仙巖園、背景は桜島。西郷隆盛の言葉は鹿児島出身の父親から譲り受けた西郷南洲翁遺訓本の一節

「おもしろ楽しく」やってほしいと思います。不真面目にという意味ではありません。楽しみながら仕事に向き合えば、仕事や会社への愛着も深まり、新しい発想も生まれます。その積み重ねが生産性や品質の向上につながり、ひいては会社の業績向上にも結び付くと考えています。

（もりなが・しゅうすけ）1988年日本大学理工学部土木工学科卒、大成道路（現大成ロテック）入社。2018年中国支社工事部長、21年関西支社工事部長、23年関西支社長、25年執行役員関西支社長、26年4月執行役員社長室長を経て6月から現職。宮崎県出身、61歳。

